

受付番号	47		
許可番号	大歯医倫 第 111142 号		
研究課題名	MFT 訓練のポッピングによる最大舌圧増加に関する評価		
研究責任者	元根 正晴	申請者	川西 順子
研究終了日	2023 年 3 月 31 日		
所 属	医療保健学部 口腔保健学科	所 属	医療保健学研究科 口腔科学専攻
職 名	教授	職 名	博士課程(後期)1 年生

申請の概要

矯正歯科治療において舌癖の改善を目的として主に成長期である小児に対して MFT（口腔筋機能療法）が長く実施されてきたが、近年ライフステージに合わせた口腔機能への対応として利用されている。MFT の訓練のひとつに舌尖の位置を意識し、舌を挙上させて舌打ちをするポッピングがある。ポッピングは、何ら器具を用いない訓練であるため容易に訓練に取り組むことができ、低位舌の改善も期待できる。

臨床現場において高齢者にポッピングの訓練を実施し、患者がそのプログラムをできる限り毎日実行することにより日中の舌挙上が無意識に可能となり、また舌挙上が口唇閉鎖に繋がり口腔乾燥も改善することがある。MFT の基本訓練とされるポッピングを実施することで他の口腔機能低下の改善に繋がることを期待できる。

しかしながら、ポッピングの実施による最大舌圧増加に関する評価についての研究はなされておらず、エビデンスがないため摂食嚥下訓練として用いられることがほとんどないのが現状である。

そこで本研究においては、健常成人を対象として、ポッピングが最大舌圧増加および食塊形成機能向上、舌口唇運動機能向上、嚥下機能向上、安静時の口腔水分量向上に有効であることを明らかにすることができれば、全てのライフステージ、特にプレフレイル期、オーラルフレイル期の口腔機能低下の予防・改善訓練としてポッピングが、取り入れられることが期待できると考える。